

# 三浦市の教育実践



三浦市教育委員会  
学校教育課

三崎中学校の校内研究は、「人権が尊重される授業づくりの10の視点」を軸に推進しています。具体的には、①授業時間の確保とともに、休み時間の確保を大切にす。②安心して学ぶために、「友達の発言を聞く」「間違いを否定しない」③「学習に参加している」「自分が大切にされている」実感をもてるようにする。④学習の見通しを大切にする。例えば、学習の目当てや学習の流れを掲示する。⑤言語環境を大切にす。⑥生徒の方をしっかりと向いて話をす。⑦称賛や励ましの言葉をかけて「ほめる」。⑧活動の時間を確保す。⑨話し合う場を意図的に仕組む。⑩自分に合った課題を選択する機会を設定す。対話的な学びでは、相手意識が欠かせません。人権を意識することで、対話を促進する効果が期待されます。



南下浦中学校の校内研究テーマは、「学力の三要素でつくる授業」。学習指導要領で資質・能力の3つの柱として掲げられた学力の三要素を軸として授業づくりに向けて、研究を推進しています。①基礎的な知識及び技能(『知識・技能』)②思考力、判断力、表現力その他の能力(『思考力・判断力・表現力』)③主体的に学習に取り組む態度(『学びに向かう力・人間性等』)の3つの柱について、各教科からアプローチします。

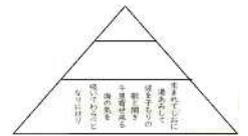
初声中学校は、「主体的に学ぶ子～主体的な学びへつながる授業づくりを目指して～」を主題に掲げて、研究を推進しています。具体として、学校のグランドデザインとして、「知」の部分を中心に、生徒向けの「学びのプラン」を示し、生徒が学ぶ上で、何を学ぶのか・何を身につけるのかを教育課程の編成と実施を目指します。具体的には、指導案検討から授業研究まで以下の3つのグループに分かれて、それぞれのテーマを追求しています。①第1グループ「伝えたいことをいかに効果的に表現していくか」②第2グループ「効果的な発表の工夫について」③第3グループ「資料を活用し共同作業を通した主体的な学び」です。それぞれのテーマを紡ぎ合うことで、主体的に学ぶ子の姿に迫ります。



呷陽小学校は、「自分の考えをもとう・伝えよう・深めよう」という研究テーマを掲げ、図工の師範授業及び研修会が行われました。子どもの表現は、周りの友達の声によって動き始める。鑑賞を通して表現が認められる→自分の表現に自信をもつ→意欲が高まり動きが加速することについて実践を通して学びました。また、友達の作品の鑑賞を通して、その表現を取り入れていく姿に着目することで、表現を自分のものにしていく過程に、「表現と鑑賞の一体化」のポイントがあるとのことでした。

名向小学校は、「生き生きと学ぶ子～共感から深い学びへ～」がテーマです。今年度は、思考ツールを学習に活用することを目指しています。

思考ツールとは、様々な考えや意見を整理したり、新しいアイデアを生み出したりする際の思考・表現を支援する様々な手段の総称です。思考ツールの活用メリットは、思考の可視化と思考の整理が可能になることです。実際、思考を可視化することで自分の考えが相手にわかりやすく伝わり、思考を整理することで、自分の考えを比較、関係づけできるようになりました。



旭小学校では「考え、議論する 道徳科授業の在り方」を追求しています。そこで、『道徳の授業の充実について』の講師をお招きして、研修会を行いました。「かぜのでんわ」という絵本教材では、「よりよく生きる」と題した学びの形について実践を通して研修しました。

道徳科で育てる「力」の①道徳的実践意欲と態度、②道徳的心情、③道徳的判断力について詳しく解説していただき、特に重要なことは、教員側が道徳的価値について理解することとお話されていました。また、評価については、道徳科の中での見えてきた成長を評価しなければいけないということでした。

正宮田小学校は、「理論的思考力の育成～自ら学び、ともに考えを深める学習を通して～」が研究テーマです。そこで、説明的文章をもとに論理的思考力を学ぶことのよさについて研究を進めています。自分の意見が伝わるとか、相手のことがわかるとか、気持ちが伝わる『快感』を大切にしています。また、「脳に汗をかく」ことの楽しさを味わうために、どのような子どもの姿を見とり、価値付けていくことが重要なのか、実践を通して追求しています。

初声小学校の研究テーマは、「主体的に学ぶ子～主体的な学びへつながる授業づくりを目指して～」です。主体的な学びを具現化するためには、どのような手立てが必要であるのか、検討しています。例えば、主体的な学びにつながる授業を2つの視点から迫りました。①場面の仕掛け ②内容の仕掛けと工夫

剣崎小学校では、「子どもの豊かさを育む学びを目指して～小規模校化における言語活動の在り方を探る～」をテーマに研究に取り組んでいます。具体的には、国語の説明文に着目しました。研修会では、「説明文のレトリックや構造」について学びました。説明的文章とは、説得行為であり、相手を納得させる力を持った表現であるため、説明的文章には、独自のレトリック・方略があるとのことでした。

例えば、レトリックの一つとして、筆者の工夫についてのお話がありました。中学年では、文章全体の組み立て、段落内の組み立て、言葉の使い方など、高学年では、論の展開から資料の示し方、形容詞や副詞の使い方、繰り返しや倒置・体言止めの表現などを学び、説明的文章のレトリックを使えるようになることが求められるそうです。

南下浦小学校では、「いきいきと学ぶ合う子の姿をめざして～自ら考え自ら表現しようとする児童の育成～」をテーマに校内研究を推進しています。新学習指導要領に掲げられた、主体的、対話的で深い学びに向けた授業改善に直結する研究です。いきいきとした学び合いは、子どもにとってかけがえのない時間になり、その成果が期待されます。また、いきいきと学ぶためには、思考に意図が絡んでくると考えられます。何を知りたくて観察、実験に取り組んだのか？ その観察、実験を計画した意図をもって、結果を解釈しながら思考・表現する姿に迫りました。



三崎小学校では、「未来に生きる子～小規模校であることを「強み」ととらえ共に学び、進んで考える子の育成～」をテーマに掲げて研究を推進しています。具体的には、算数の授業を通して、共に学ぶ姿、進んで考える姿に迫りました。そのために、子どもの表現に着目し、数式だけでなく、図やイメージを使った問題解決を図れるようになるためには、どのような手立てが考えられるのか、検討しました。